

国際法学会 2023 年度研究大会公募報告（追加募集）への応募を検討しておられる
会員のみなさまへ

2023 年 3 月 13 日
研究企画委員会

2023 年度研究大会は以下のように構成される予定です。報告タイトルはいずれも仮題
であって変更の余地はありますが、根幹部分が変わることはありません。

応募される際は、これら報告テーマとの重複を避けてくださいますよう、お願い申し上
げます。重複の可能性につき懸念がある場合、事前に研究企画委員長までご照会くださ
い。

研究企画委員長 濱本正太郎 hamamoto*law.kyoto-u.ac.jp

(*を@に置き換えてください。)

第 1 日午後の部	「国際法に『違反』するとはどういうことか」	
個別報告 1	ロシアによる武力行使に対する各国の評価の意義	森肇志
個別報告 2	上級委員会なき現在、WTO 法に「違反」するとはどう いうことを意味するのか	福永有夏
個別報告 3	司法判断・仲裁判断に従わない実行の評価	李禎之
個別報告 4	「国際法の法的性質」論争再訪——司法化・「違反」認 定の客観化の後	郭舜
第 2 日午前の部	「国家管轄権論における『違反』とは」	
個別報告 5	国家管轄権論における「主義」の国際法上の意義—— 「国家管轄権規則への違反」は観念できるか	古谷修一
個別報告 6	経済制裁と「域外適用」	吉村祥子
個別報告 7	海洋法における管轄権論再考	小島千枝
第 2 日午後の部		
第 1 分科会	「『違反』の効果」	
分科会個別報告 1	金融規制（バーゼル規則）の「違反」	森下哲朗
分科会個別報告 2	知的財産保護規制における「違反」	申美穂
分科会個別報告 3	海洋法における私的基準の「違反」	中村秀之

分科会個別報告 4	地球環境保護関連条約における「違反」	山田高敬
第2分科会	『違反』を回避する法は機能するか	
分科会個別報告 5	環境法における不遵守制度の stock-taking	繁田泰宏
分科会個別報告 6	目標設定手法（SDGs など）の実効性	小川裕子
分科会個別報告 7	Legitimacy-talk は何を生んだか 「正統性に欠ける」ことの意味	望月康恵
分科会個別報告 8	調停が機能する条件	玉田大
	コメント（5分）	高杉直
第3分科会	「国際刑事法における『違反』」	
分科会個別報告 9	中核犯罪実行者は「国際法に違反」したのか、そうだとするといかなる意味において？	坂本一也
分科会個別報告 10	「ジェノサイド罪」「ジェノサイド防止義務」は誰のどのような利益を守っているのか	稲角光恵
分科会個別報告 11	（ジェノサイド罪を除く）中核犯罪の被害者とは誰か	齋藤 デビッド宥雅
分科会個別報告 12	ICC 規程上の犯罪の国内犯罪化と ICC 規程の「違反」	洪恵子
第3日午前の部	公募個別報告（最大3つの分科会。現時点で割当未定）	
公募個別報告 1	国連における国家の代表権問題の検討—実効性と正統性の調和的理解を目指して	田中佐代子
公募個別報告 2	気候変動訴訟と「ビジネスと人権」—グローバル・バリューチェーンの排出に対する企業責任—	檜崎みどり
公募個別報告 3	国際法における感情—国際法律家の（脱/再）身体化	根岸陽太
公募個別報告 4	海面上昇に対する気候変動適応策の国際法上の位置づけ	本田悠介
公募個別報告 5	（追加募集対象）	
公募個別報告 6	（追加募集対象）	
公募個別報告 7	（追加募集対象）	

公募個別報告 8	(追加募集対象)	
公募個別報告 9	(追加募集対象)	
第3日午後の部	公募パネル報告 (最大3つ)	
公募パネル報告 1	日本の国家実行が国際法に与えた影響	石橋可奈美 小畑郁 前田直子 水島朋則 竹村仁美 豊田哲也
公募パネル報告 2	(追加募集対象)	
公募パネル報告 3	(追加募集対象)	